



ŌMIYA NEWS



No.8

2022年7月22日

JR 東労組大宮地本

大地申
第2号

2022年3月ダイヤ改正実施以降
の問題解決を求める申し入れを提出！！

JR東労組大宮地本は「変革2027」の実現に向けて、打ち出される各種施策に向き合ってきました。2022年3月ダイヤ改正より実施した「ワンマン運転」は、対象線区・区間を宇都宮線(小山～黒磯)、日光線(宇都宮～日光)とし同区間に、新型車両E131系を導入するなど大きな変化点となっています。

一方、ダイヤ改正以降に社内外問わず様々な声が出ています。特徴として両数削減の影響を受け、車内混雑に対する不満の声が多く、コロナ禍における社会背景も相まって改善の声が高まっています。

この実態を受けて、宇都宮支部と宇都宮運輸区分会が中心となり、4月11日(月)～15日(金)、5月23日(月)～27日(金)の期間において①旅客流動②遅延状況③到着から発車までのホームの様子④ご利用になられているお客さまの声⑤運転士への聞き取りなど検証を行ってきました。その結果、ホーム上が混雑し触車の危険性があるなど安全に直結する重大な問題も出ています。ご利用されているお客さまからは「混雑しているので乗車列車を変えた」「コロナが怖くて利用しづらい」「昨年より混んでいる」「本数を増やしてほしい」「乗り降りする時に押されて怖い」「3両には乗らない」「整列乗車のシールを貼ってほしい」など多くのご意見を賜り、実際に乗務している乗務員や検査業務にあたる検修職場からも車両に対する改善の声が多く出されています。

「変革2027」の実現に向けて「お客さまに近い場所で、お客さまのニーズに寄り添い、経営課題に挑戦する」としており、改めて公共性の高い企業であることを自覚することはもちろんのこと、企業利益を優先しお客さまの声を無視することがあってはなりません。自治体からも「JR日光線の混雑解消に関するお願い」という文書が出される事態になっており、見える形で早急に具体的な改善が求められます。コロナ禍においてもご利用いただいているお客さまの声に耳を傾け、職場で苦勞している組合員・社員の努力を受け止めると共に「安全・健康・ゆとり」を実感できる施策の実現に向けて、下記の通り申し入れを行いました。

今後、組合員の声をもとに団体交渉を行います。

申し入れ項目

1. お客さまのご利用状況に応じて学校臨を設定しながら柔軟に対応している烏山線を参考にして、平日の早朝においては混雑緩和の観点から鹿沼始発の臨時列車を新たに設定すること。
2. 671M列車をご利用のお客さまが多く、黄色い点字ブロックの外側で待たざるをえない状況を鑑み、保安要員を配置しホーム上の安全を確保すること。
3. 673M列車をご利用のお客さまが多く、黄色い点字ブロックの外側で待たざるをえない状況により通過の貨物列車と触車のおそれがある為、ダイヤ設定を見直すこと。
4. E131系運転室の冷房機能が不十分で運転に集中できない為、改善を図ること。また、ワンマンモニターやドア不具合などが多発しているため、原因究明と改善に向けた対策を明らかにすること。
5. E131系の第1パンと第2パンの間隔が短い事が影響し速度制限がかかるため、改修を図ること。

職場問題の解決と利用しやすい鉄道を実現しよう!!